

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 26 年 11 月 27 日 (2014.11.27)

【公開番号】特開 2013-92662 (P2013-92662A)

【公開日】平成 25 年 5 月 16 日 (2013.5.16)

【年通号数】公開・登録公報 2013-024

【出願番号】特願 2011-234895 (P2011-234895)

【国際特許分類】

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

H 0 5 B 6/14 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/20 5 0 5

H 0 5 B 6/14

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 10 月 11 日 (2014.10.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

一方、不図示の給紙部から給紙されたシート状の記録紙（記録材）P は、転写バイアスが印加された転写部材としての転写ローラ 5 とドラム 1 とが圧接している転写部へ適切なタイミングをもって搬送される。そして、記録紙 P の面にドラム 1 面のトナー画像 t が順次に転写される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

トナー画像 t が形成された記録紙 P はドラム 1 面から分離されて記録紙材上の未定着画像を加熱して定着させる定着手段としての定着装置（IH 定着装置）F に導入される。そして、定着ニップ部 N で挟持搬送される過程において熱と圧によってトナー画像 t が記録紙 P 上に固着画像として定着され、画像形成物として機外に排出される。記録紙 P を分離した後のドラム 1 はクリーニング装置 6 でドラム面に残った転写残トナーがクリーニングされ、繰り返して作像に供される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

（ 2 ）定着装置 F の全体的な説明

図 2 は定着装置 F の要部の横断面模式図である。この定着装置 F は、少なくとも誘導発熱体で構成され、画像 t を担持した記録紙 P に接する回転可能な画像加熱部材としての定着ローラ 15 の外部に磁束（磁界）発生手段としての加熱アセンブリ 10 を配設した外部加熱型の誘導加熱方式の画像加熱装置である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

ここで、定着装置 F に関して、正面とは装置 F を記録紙入口側から見た面、背面とはその反対側の面（記録紙出口側）、左右とは装置 F を正面から見て左または右である。上下とは重力方向において上または下である。上流側とは記録紙搬送方向 a に関して上流側と下流側である。定着装置 F またはその構成部材の長手方向とは、回転体の軸線方向（スラスト方向）、または記録紙搬送路面内において記録紙搬送方向 a に直交する方向またはその方向に並行な方向である。短手方向とは記録紙搬送方向 a に並行な方向である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

これにより、加圧ローラ 16 は定着ローラ 15 に対して弾性層 16b の弾性に抗して所定の押圧力で圧接する。この圧接により定着ローラ 15 と加圧ローラ 16 との間にローラ周方向（記録紙搬送方向 a）において所定幅のニップ部（定着ニップ部）N が形成される。加圧ローラ 16 は定着ローラ 15 に圧接している状態において、定着ローラ 15 の回転駆動に従動して矢印 R 16 の反時計方向に回転する。加圧ローラ 16 を回転駆動し定着ローラ 15 を従動回転させる、或いは定着ローラ 15 と加圧ローラ 16 との両方を回転駆動する装置構成にすることもできる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

コイル 11 は、図 3 の斜視図のように、左右方向に長い略楕円形状（横長船形）をしており、定着ローラ 15 の略上半部側の外周面に沿うように、ハウジング内側に湾曲しているハウジング底板 17a の内面にあてがわれてハウジング内部に納められている。即ち、コイル 11 は、定着ローラ 15 の長手に沿って長く定着ローラ 15 の表面における記録紙 P の最大通紙幅領域に対向して配置されている。コイル 11 は芯線として、0.1～0.3mm の細線を略 80～160 本程度束ねたリッツ線を用いている。細線には絶縁被覆電線を用いている。このリッツ線を 8～12 回巻回してコイル 11 を構成している。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

本例において定着装置 F に対する大小各種幅サイズの記録紙 P の導入は記録紙幅の中央を基線とする中央基準搬送でなされる。そこで定着ローラ 15 の表面温度を検知するサーミスタ TH は定着ローラ 15 の少なくとも装置 F に通紙可能な最小幅サイズ記録紙の通紙幅領域内に配置される。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 7 】

上記のようにして、定着ローラ 1 5 と加圧ローラ 1 6 が回転され、定着ローラ 1 5 が所定の定着温度に立ち上がって温調された状態において、ニップ部 N に、未定着トナー画像 t を担持した記録紙 P が画像面側を定着ローラ 1 5 側にして導入される。記録紙 P はニップ部 N において定着ローラ 1 5 の外面に密着して定着ローラ 1 5 と一緒にニップ部 N を挟持搬送されていく。これにより、記録紙 P に定着ローラ 1 5 の熱が付与され、またニップ圧を受けて未定着トナー画像 t が記録紙 P の表面に固着画像として熱圧定着される。ニップ部 N を出た記録紙 P は定着ローラ 1 5 の表面から順次に分離されて排出搬送される。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 8 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 8 0 】

ユニット 2 0 のパッド 2 2 と加圧ローラ 1 6 とはベルト 1 5 A を挟んで所定の押圧力で圧接していて、ベルト 1 5 A と加圧ローラ 1 6 との間に記録紙搬送方向 a において所定幅のニップ部（定着ニップ部）N が形成されている。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 8 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 8 3 】

この状態において、ニップ部 N に対して未定着トナー画像 t を担持した記録紙 P が導入される。記録紙 P はニップ部 N においてベルト 1 5 A の外周面に密着し、ベルト 1 5 A と一緒にニップ部 N を挟持搬送されていく。これにより、未定着トナー画像 t が記録紙 P の表面に熱圧定着される。ニップ部 N を通った記録紙 P はベルト 4 1 の外周面からベルト 1 5 A の表面がニップ部 N の出口部分の変形によって自己分離（曲率分離）して定着装置外へ搬送される。